

天目山ヲ固メントス、時ニ猶是路アル莫シ、翳ヲ冒シ蒼蒼ヲ排
 シ、前山ヨリ以テ進ム、郷豪士兵、處々屯結シテ逆ヲ助ケ、盜賊
 叢生シ、聲勢相扇ス、將校扈從ノ士モ、日々竈ヲ減ジ、夫人侍姫
 ハ荆棘中ニ徒跣シ、路草モコレガ為ニ色變ゼリ、父老ノ其事
 ヲ目撃セシ者、言ヲ傳ヘテ今ニ至リ、尚為ニ潜然タリト、予省
 吾ト覺エズ、歎歎スル之ヲ久フス、

○冬

冬一日 附冬至

天凝リ地閉チ、風厲ク霜飛ブ、○風悲ミ氣肅ル、○孟冬寒氣至リ、北
 風慘慄タリ、○木葉解チ苔蘚枯ル、○林下ニ蟋蟀ヲ聞キ庭中ニ橙

冬孟用通

橘黄ナリ、○荷ハ盡テ己ニ雨ヲ擎ルノ蓋ナク、菊ハ殘シテ猶雨相ニ傲ル、枝
 アリハマダコリテアルト云、○風霜高潔ニシテ、水落チ石出ツ、山ナドノ、○平沙

ニ雁語リ、寒嶼ニ梅開ク、○時維陽月ニシテ、景小春ニ属ス、○簷前日
 暄ニシテ、花ヲ護スベレ、○氣即寒ニ向フ、○霜氣倍厲シ、サムサガタ

冬仲

ル、○霜葉地ニ滿チ、冷氣軒ニ盈ツ、○正ニ是橙黄ニ橘緑ナル時、○朔風
 凜冽トシテ、厚氣嚴凝ス、風ガサムク、○霜相互已ニ甚シシモ、ガフリテ、サ
 著シサムサガベツ、○寒威栗冽シキ、○人綿衣ヲ重襲ス、サムサガツヨクテ、人ガ

冬隆

スル、○寒氣人ヲ侵ス、○寒力骨ニ徹ス、○肌膚粟ヲ生ス、サムクテ、ケア、○凍
 鐵ノ如シ、○指ヲ墮レ、膚ヲ裂クツヨキ、○大寒既ニ至リ、雨相雪既ヘ

降ル、○大寒雪ヲ降ス、○凝氷重澗ニ結ビ、積雪重巒ニ被ル、タニハ氷ガハリ山ニ

刀是作人目

一編

秋冬 峡中紀行 冬日

九十四

雜

○雪群山ニ滿ツ○雪後苦寒シ○氷漸硯ニ生ススリハコホ○勁氣方ニ
 酒ヲ凝シ、清氣正ニ綿ヲ抅クサムサガツヨクテ酒モ○玄陰凝結シテ、天地色
 ナク、飛素咽ガ如ク、翔走蹤ヲ絶チ、身モ亦栗々トシテ毛顫グ○嚴冬ト
 雖、氏ユキ互寒ノ甚キニ至ラズゴクカンノキデモサム○雪ヲ釀シテ成ラス却テ微雨ト
 ナルユキガブリソウテ、アラス○梅花瑞ヲ献ジ、雪豊年ヲ兆ス○西山雪霽齊テ東
 閣梅香シ○微雪素ヲ點ジテ、晚霰彩ヲ鬪ス○隆冬、寂寞ノ日、惟膝
 ヲ抱テ冷坐ス冬サハクテナニ○喜テ寒梅ノ漸肥ルヲ見ル梅ノソホミクダンクフク
 ○歳將ニ晚ントシテ、橙橘芳馨○離落ノ邊、梅花數點カキネギシノウメ○
 曉寒骨ニ透ル○時冬令ニ値リ、名花退藏スト雖、氏ハ倉松翠竹、清氣
 人ヲ襲ヒ、殊ニ花光ノ妍媚ニ勝レリ

冬至

一陽氣轉ジテ、六管灰ヲ飛ス冬至ニナリタリ○六管灰ヲ飛スハ昔支那ニテ冬
 ○密室灰ヲ飛シテ、一陽初テ動ク同上○春意暗ニ浮ビ、管灰云ニ飛ブ同上
 ○陽和来復シ、晷刻初テ長ス冬至ニナリテ○氣ハ新陽ヲ復シ、日ハ長
 至ヲ迎フ同上○純陽機漏ハ、曆日才ニ添フ同上○陰極テ陽生ス同上○日
 己ニ長ヲ添ルヲ覺ユ同上○暖信ノ遙ニ傳ルアルヲ知ル梅ノ花トドノヒ○自
 カラ青陽ノ消息アリ同上○春光ヲ漏ス同上○寒梅漸綻ブ梅ノ花ガスコシ

冬夜

附圍爐

酌酒

月黒ク風寒クシテ、霜威膚ヲ襲フ○破屋ハ仰テ星ヲ見、窗風ハ冷ニシ
 テ、鏝ガ如シ○松梢月上テ、鐘聲忽度ル○夜靜ニシテ、鐘聲ヲ聴ニ、音
 響尤清越○深巷ノ寒犬、吠聲豹ノ如ク、村墟ノ夜、卷疎鐘ト相間ル

○犬吠ル聲 狼々トシテ遠ク聞ユ○寒窓ニ雪ヲ點ジ凍硯ニ氷ヲ呵ス

ヨノサム ○墨池寒シテ氷ヲ結ント欲ス○氷ヲ敲テ茗ヲ煮ルヲホリテ水

キサマ ○氷ヲ敲テ茗ヲ煮ルヲホリテ水

○表衣ヲ重ネ茵ヲ累テ坐ス○寒燈ニ燭ナク、敝裘ニ温ナレ夜ノサム○重衾

モ暖氣ナク、挾纊モ氷ヲ懷ニ似タリヘトホヤク○鐵瓶湯減ジテ松聲自

カラ低ク、盞燈花結テ星影始テ暗シクサマ○一燈然トシテ萬籟聲

ナレト ○孤燈黯淡トシテ影暗シ○半點ノ燈燼滅セント欲シテ乍明ナ

リ○漏盡キ燭殘シ、香銷シ若冷ナリ○蕭蕭叔殊ニ甚シ○夜耿々ト

シテ寢ラレズ ○氣愈清テ眼愈明ナリ上○通夕寢ラレズ

又○更長シテ睡少ク漏永シテ寒多シ夜ガナガクネラ ○夜月人ヲ窺フ

○几ニ倚テ假寐ス覺ルニ及テ硝窗虛明乃月ノ上ルヲ知ル○月

窓罅ヲ窺フ 月ガマドノスキ ○半窗ノ梅月一枕ノ松風○紙窗ノ上月光

漸満チ、樹影參差見ル所空ニ非ズ色ニ非ズ月ガマドノシヤウ ○秋冬ノ交靜

夜獨坐シ、風雨ノ瀟々タルヲ聞ク毎ニ既ニ凄然トシテ愁スベク、亦復悠

然トシテ喜ズ、酒醒燈昏ノ際ニ至テ尤懷ヲ為シ難シ○影ヲ寒窓ニ

抱キ、霜夜寢ラズ、松竹ノ下ニ徘徊スレバ、四山月白久露氷柯ニ墮ツ、

○蒲團ニ坐シ、松端ノ月ヲ看若ク煮テ談ヲ佐ク

圍爐 煖閣紅爐アタカキハヤアカク ○爐邊ニ團坐スキロリストリカ ○寒ヲ畏

テ爐ヲ擁ス ○高卧シ戸ヲ閉テ、爐ニ榻拙ヲ煨ク ○團欒トシテ紅爐ヲ

擁ス ○烏玉紅ヲ潑レ、獸炭香ヲ吐ク火ノオコ ○薰シ得テ、通身汗潤フ

リテ、アセ ○雪候還テ是軟暖フルキデモアタカイ ○爐ヲ擁シ、芋ヲ煨リ欣

刀筆作 一編 冬 冬夜 圍爐 九十六

然一飽ス○夜寒小室ノ中ニ生ス、爐ヲ擁シテ間話ス、渴スレハ則チ永ヲ飲テ飲テ茗ヲ煮ニ煮ル飢レハ則チ火ヲ撥シテ芋ヲ煨ル○柴枝濕テ地爐暖ナラズ
 酌酒陽春室中ニ滿ツ火ヤ酒ナドガアリ○火桶ヲ擁シ、鍋ヲ置キ、羹ヲ煨ム
 ○肉ヲ炙テ火ノ軟ナルヲ覺ユ○火活シテ肉沸ク○銀爐火軟ニ鐵
 瓶幽聲ヲ起ス○鬱肉ヲ爐中ニ炙リ團坐シテ飲嗜ス○
 酒力漸湧キ、火氣方ニ騰ル○鍋沸テ烟馨シ、四箸一鍋ヲ共ニ、已ニ
 飽キ已ニ醉フ、ヒトゾ大ニフリテ、○村釀新ニ菊取シテ、紅葉ヲ燒クキナ
 クリノ酒ヲワラコニシテ○寒雨蕭々タリ、爐ヲ圍ミ以テ敗葉ヲ燒キ、村酒
 コエラヲタキ、アタシル○方ニ厚シクテ酌テ寒ヲ驅リ、煖爐ヲ置テ冷ヲ御ホグ○雨相甘ヲ
 煖ム○方ニ厚シクテ酌テ寒ヲ驅リ、煖爐ヲ置テ冷ヲ御ホグ○雨相甘ヲ
 劈シ香醪ヲ酌ム○溪鱗ヲ割キ、野菽ヲ煮ルコレラユ○殘樽未固

例作

レズ乾有猶香シ○刺齋殘哉
ホシウラ ジヨウレン ガンシ
ホシウラ ホシウラ ホシウラ

圓山文會筆記 原漢文

淺見網齋

京師景勝ノ地ハ、東麓ニ於テ多シトナス、其間尤モ名ヲ得ル者
 ヲ、靈山ト曰ヒ、圓山ト曰ヒ、雙林ト曰フ、皆僧國阿ノ創ル所、世
 ニ謂フノ所ノ時宗ナル者ナリ、中葉以下、遨遊踵ヲ接シ、殆ド虛
 日ナシ、住僧因テ樓ヲ架シ、閣ヲ構ヘ、以テ賞客ヲ延ク、都テ數
 十所、遂ニ都下宴會ノ盛場トナル、首段ハ是レ世俗ニ元祿丙子
 ノ初冬、諸生ヲ率テ、文ヲ雙林教阿彌ノ亭ニ會ス、是日秋氣尚
 餘リ、紅林燦爛、清雅幽邃、日暖ニ雲收リ、四望悠朗、興意甚愜ヘ
 リ、遂ニ磴ヲ歷テ、蹊ヲ遶リ、遺跡ヲ訪ヒ、閒境ヲ搜リ、時候ヲ語リ、

事蹟ヲ談シ、座ニ還テ茶ヲ喫ス、頃之シテ書ヲ講シ文ヲ草シ、
 各情ヲ勵マシ篇ヲ緝メ、以テ課業ヲ尾ス、此一段方ニ是本題
發歎詞ヲ以テ議論ノ端ヲ發ス、首段中、兼以テ會ノ事
 嗚呼東山此亭アリテヨリ以來、未其幾春秋ナルヲ知ラズ、而
 シテ花晨楓晩、年々遊賞スル者、華麗奇美、杯酒絃管、謳歌酌酹
 シテ、豪ヲ競ヒ勝ヲ鬪ハセ、以テ日ヲ終ヘ、此間疑ラクハ、盡ク
首段、遊遊、踵ヲ接ス、ニ、應オ、折、多、少。
 シテ已ザル者、其幾千萬人ナルヲ量ルベカラズ、而シテ今日
ノ感慨
 ノ會ハ、蔬饌薄酒、絃ナク謳ナク、蕭洒間雅、獨致々トシテ文ヲ
 論ジ義ヲ覈ムルヲ以テ、藝ニ遊ブノ業トナス者ナリ、世俗ノ
 稱スル所、東山ノ會ナル者ヲ以テ之ヲ觀レバ、孰カ之ヲ異マ
冷語、大ニ味。
 ザランヤ、余也此ニ於テ感ナキ能ハズ、因テ書シテ以テ諸篇

ノ後ニ附シ、他日懷古ノ資トナス、

觀雪

記遊通用ヲ
見合スベシ

意雪

天將ニ雪フラストス ○雪意方ニ動クユキガフリ ○雪意骨ニ礎ス ○形雲
 濛々トシテ、夜ニ迄テ開カズ ○凍雲霏々クモアヒ ○上天同雲ニシテ、雪

飛雪

フル雪々タリ ○霰漸瀝トシテ先集リ、雪紛揉トシテ遂ニ多シガフリテソレ
 ノフル ○風凜々トシテ雪紛々タリ ○玉屑漸瀝トシテ落ツユキノ ○萬

景雪

片空ニ漫ルソウフル ○柳絮ノ風ニ因テ起ルガ如シ雪ノフルンガヤナギ ○雪花
 窗ニ唾シ、風力壁ヲ剥グカニニタルヲ ○大ナルハ、鷲毛ヲ落スニ似タリ、密ナ
 ルハ玉屑ヲ飄スガ如シミタテ ○大風積雪ヲ揚テ面ヲ撃ツ ○積雪皚皚
 皚 ○一望スレバ平ナル銀海ノ如シユキノツモ ○無邊ノ光景上 ○混茫

刀皇作人自筆

一編

冬

圓山文會筆記

觀雪

九十八

下白ニシテ天地ヲ見ズ上同○萬ハハ一白ニシテ玉ヲ鋪シガ如シオホクノヤネヘユキノツモリタサマ

○樹々玉ヲ綴ツル木ニユキノツモリタミタテ○玉雪花ヲ開ク上同○雪ケイ瓊ケイ樹ヲ開キ氷

ハ瑤池ヲ作ス雪ガ木ヤ池ニツモリテケイナナル○六花散亂シ阿堵中ノ物ヲ擧テ皆

玉粧ナリ人ヲシテ殊ニ灞橋ノ佳思ヲ發セシム雪ノカタチハ花ノ如クムヒラニナリタルユヱ六花或ハ六出ト云阿堵

ハ眼ノ灞橋佳思ハ昔鄭繁ト云人ハユキニシテタル故事ノコトハ雪アリノケレキカヨクテ兵ノアルト云○千峯玉ヲ堆カクニ萬壑銀ヲ鋪ク

○千山鳥飛絶工萬選人蹤滅ス○玉鱗ヒ雲ヒ緜ヒトシテ前ケイ漢ヒ夕ヒ

埋ヒ又ヒス○無影ノ月不香ノ花混々タル長江ノ中ニ蕩ヤウ漾ヤウス川ヘユキノツモリタケレキ

○銀河ヒ絮ヒヲ剪リ玉宇花ヲ飛ヒスユキノフル○六花瑞ズヲ呈ズス雪ハ豊年ノシレル

盡是畫裏ノ江山山ヤ川ヘユキノツモリタミタテ○飛ヒ散ヒ林ニ入り廻ヒ風竹ヲ折ル○寒ヒ篁ヒヲ

壓ヒスユキガツモリテ○靜夜惟折竹ノ聲ヲ聞クユキフリノ夜竹ノヲレルオトスル○積雪脛ヲ没

霽雪

寒威

雜

スユキガツモリテ○雪甚レクテ幾ド靴ヲ没スルニ至ルユキガツモリテ○路ノ尋

ベキナレユキガツモリテ○路ヒ壅ヒ絶ヒレテユキガツモ○顛ヒ躓ヒレテ途ニ迷ヒフユキ

カクテアユメ○夜雪初テ霽レ月色清明ニレテ四望皎然タリ○雪夜月天

ニ當テ心境澄徹ユキノハレタ夜月ガサヘテ○雪霽ノ清境ヒ夢ヒ想ヒニ發スユキノハレ

○寒威凜烈サムサガ○手ヲ呵スレヒ温ヒヲ成サステハイキヲカケテモ

○兩耳凍テ幾ド脱スサムクテ○凍ヲ忍テ孤吟ヒス○銜ヒ金ヒ暖帳中ニヒ淺ヒ

○窗ヲ開テ獨坐スヒ光ヒトヒレヒ身ヒノヒ水ヒ壺ヒニヒ在ヒルヒガヒ如ヒシユキノミ

○徘徊ヒ凝ヒ覽ヒレテヒ以ヒテヒ奇ヒ思ヒヲヒ發ヒス○筆ヲ呵ヒレテ詩ヲ題スコホリタテ

○簾ヒヲヒ褰ヒテヒ者ヒ

○中陰ノ雅興ヒヲヒ盡ヒス晋ノ王子猷ト云人ハ山陰ニテ雪見ヲシタル故事○接ヒ離ヒヲヒ著ヒ

刀思作ヒ一編ヒ冬ヒ觀ヒ雪ヒ九十九

レ鶴カクシヤウ驚ヒラ毛ヒラ披ヒラク接離ハ白鷺ノ羽ニテツクリタル暖ナル帽鶴驚ハ王恭ト云人ノ故事ニテ ○童

ヲ呼コミチテ徑コミチヲ拂ハフコトモニユキヲ ○雪ハラフヲ掃ケイテ徑コミチヲ開ヒンカクキ、以ムカテ賓客ムカヲ迎ムカフユキ

キテキヤク ムカヘル ○榻コシカケヲ掃チヤヒ若メイヲ煮ニルキヤクトドラ ○門カギヲ杜ササテ出デズヲ外ヘデヌ ○密

雪初コシテ釀カシツツ畫舫ハクフ始モトテ催モトスイリテユキミニデル ○夜大ニ雪ユキフル、眠サシ覺サシテ室

ヲ開イシキ、命イシジテ酒サケヲ酌サカム、四望シツク皓然カクタリ、因ユテ起オチテ彷彿ハクフス ○隰サハヲ眺サ

レバ則チ萬頃マンケン縞カウヲ同トシ、山ヤマヲ瞻シレバ則チ千岩センガン白シロヲ俱トモニシ、臺ダイハ重壁チュウヘキノ如トシク、

達キハ連レン璐ロニ似ニタリ、庭ニ瑞エウ塔カクヲ列ツツシ、林ハ瓊ジュ樹ジュヲ挺トウテ、皓カク鶴カク毛モ鮮センヲ奪ウハ

レ、白シロ鷗ウモ素ソヲ失ウシフ

例作

雪說

成島柳北

疎々密々、竹ニ灑ギ、柳ニ點シ、鶴毛飛ビ、鶴毳舞ヒ、散シテ柳絮

ト為リ、綴リテ梨花ト為ル、梁花ノ賞心濃カニシテ、灞橋ノ遊

意勃タリ、隱士酒ヲ呼テ靜カニ玩ビ、美人簾ヲ捲テ巧ミニ吟

ズ、雪ノ情致何ゾ其レ甚ダ多キヤ、之ヲ花月ニ比スルニ、優ル

有テ劣ル無シ、雪ハ真ニ愛ス可キモノ歟雪ノ愛スベキヲ說ク却テ是文ノ反面

然ト雖凡峻山幽谷行路一線、纜ニ薛蘿ヲ攀テ過ギ、巉巖ヲ踏

テ度ルノ地ニ於テ、嚴冬ノ候、木雪連日、天地皚々トシテ、山々

ヲ見ズ、谷々ヲ知ラズ、玉塵幾尺脛ヲ没シ、股ヲ埋メ、朔風面ヲ

撲テ、雪片手ヨリ大ナリ、況ヤ積雪團々、勢巨礮ノ如ク、絶壁ヨ

リ墜下シ來ルヲヤ、行旅之ガ為メニ空ク窮谷ノ鬼ト為ル、雪

モ亦能ク人ヲ殺人、豈恐ル可キニ非スヤ、余嘗テ越ニ遊ビ、柳

瀨ヨリ府中ニ赴ク、其間險阪危磴、上下數里、平日猶跋涉ニ困
 セリ、土人云フ、三冬風雪ノ日、行人多ク死スト、雪ノ恐ルベキヲ説ク、是文ノ
 正東の筆嗚呼均シク雪ナリ、綺樓芸閣賞玩シテ娛ム可キモ、深山絶
 谷之が為メニ死スルノ禍アリ、蓋シ物其度ヲ過ギ、其節ヲ失
 フニ至テハ、皆其害ヲ受ルヲ免レズ、何ゾ獨雪ノミナランヤ過
接今夫琴碁茶酒ノ娛タル、盡ク是風流韻事ナリ、然レモ昏迷惑
 溺シテ、其心ヲ喪フニ至レバ、其家産ヲ破リ、其職業ヲ怠リ、竟
 ニ以テ自ラ害ス、亦戒メザル可ケンヤ、古人ノ風流韻事ニ於
 ルヤ、意ヲ此ニ寓ス、今人ノ風流韻事ニ於ルヤ、心ヲ此ニ喪ス、
 固ヨリ霄壤ノ異アルナリ、雪ノ害ヨリシテ琴碁茶酒會天雪ノ弊ニ説及ス、是文ノ餘意

フル、草廬寂然、一張ノ琴、一甌ノ茶、賞玩シテ餘興アリ、戲レニ
 雪ノ説ヲ作り、以テ某公子ニ贈ル、

狩獵

鳥獸ノカリヲスル一〇記遊通用、并ニ郊遊、山行等ヲ見合スベシ

山野ニ遊獵ス〇弓燥キ手柔ニ草茂シテ獸肥タリ〇時ニ方ニ秋杪
 黃犬ヲ牽キ、蒼鷹鷹ヲ臂ニシ、郭門ノ外ニ出ヅ〇近鄰ノ少年輩ヲ誘ヒ、
 馬ニ跨リ、彈ヲ挾デ出ヅ〇土人ヲ雇ヒ為ニ鄉導セシム〇發縱指示頗ル
 其宜ヲ得タリカリヲスル犬ナド又上手ニツカフ〇高隅ニ據テ鷹韜ヲ發ス、已ニ發セバ、則遲々
 空ヲ摩ス〇奮馬雲ヲ穿テ以テ逝ク、漸ク眇然トシテ見ルベカラズタカノ高クトブ
 〇劍翎鈎爪ケンレイコウサウタクノハネヤツメノツヨキ〇金眸玉爪キンボウジュウ凡材ボウサイナラズタカ〇鷹準擊ヨウジンント欲セ
 ハ必先翼ヲ收ム〇鷹ヲ放テ其目ヲ攫シ、然後ニコレヲ殺ス〇試ニ散彈ツカミツク

鷹放

銃弓

ヲ放ツ、一發能十羽ヲ墜ス一發ノアミダカ ○彈スルニ火鎗ヲ以テシ、直ニ其胸冬チ
 ニ中ツ ○火鎗ヲ以テ百餘ヲ彈斃ステツハウデトリセケモ ○手ニ應ジテ斃ルタフ 銃
砲太ニ手ゴクカシテ、 ○駿馬ニ騎シテ馳射ス ○弓虚發セズ發スル毎ニ絃ニ應ユミ
トリケモノノシヌ シテ倒ル ○發スレハ命中セザルナレ ○痛ヲ負テ狂奔スケモノガ矢丸 ○毛體
アトラヌ 摧落ケル ○昏絶シテ倒ル矢丸ニアタ ○駛馳スルヲ捷速ニシテ獵捕スル甚ダ
メカク 難シ ○要路ニ當テカキ 陷阱ヲ挑控ス ○兔窟ヲ林薄ノ間ニ設ク ○乍聲
オトシ ヲ聞テバイ 媒ニ應ス ○獲ノ多キヲ獸ヲ雨スガ如シ ○獲丘山ノ如シ ○豺狼
ヲトリ ノ跡遂ニ絶ユ ○其類ヲ絶滅スルヲ能ハズ ○仰テ雲巢ヲ傾ケ、俯シテ地
スマニシケモ 穴ヲ彈ス ○猛獸ヲ格殺ス ○田獵ヲ好ミ、出入時ナク、風雨寒暑ヲ避ケズ
タカキケモ、テカチ 記義鷹原漢文

例作

記義鷹原漢文

齋藤拙堂

雜

吾ガ侯嘗テ郊ニ獵シテ鷹ヲ放ツ、鷹方ニ鴈ヲ攫スル氏、鴈羣來
 リ救テ相搏ツ、鷹人コレヲ驅レバ乃散ズ、中ニ一鴈アリ肯テ
タカジヤ 去ラズ、死カヲ出シテ抗闘シ、鷹ト皆斃ル、見ル者感歎セザル
 ハ莫シ、嗚呼、朋友急厄ノ時ニ方テ來テ相救フ者スラ尚衆ヲ
 得ズ、況ヤ死ニ抵テ辭セザル者ヲヤ、鴈乎、鴻乎、吾汝ニ泰清ニ
 從ハシ、

歲暮

鳥兔迭ニ運レ丹々トシテ又迫歲ナリ月日ガハヤクタクナ ○四時遞ニ來テ
リテトシカクレル 歲ヲ卒フレジガ、ウツリカハ ○歲月居ラズ、時節流ルガ如シ月日ガハヤ ○光陰
ハ 梭ノ如シ上 ○白駒ノ隙ヲ過ルガ如シ上 ○迅速ノ流光暗中ニ催換ス
ハ

同 ○節物入ヲ催ス上同 ○光陰瞥々満面ノ風塵月日がハヤク多キニ ○歳律セジニオハレルヲ

已ニ促ルトシク ○歳序將ニ春ナラントスイマニトシ ○人事將ニ新ナランアラタ

トス上同 ○世事鞅掌アウレヤ ○風塵ニ奔走スシキ ○俗羈キ 絆シ 上同 ○

心事匆々トシテ違アルナレ上同 ○家々塵燐ヲ掃除ス ○家々餐ヲ舂モチ

ツキ、飲饌ノ料ヲ具ヘ以テ新年ノ儲ト為ス ○餐ヲ舂ツクノ聲、比屋相カドナミ

接ス ○親友互ニ相餽遺シテ以テ卒歳ヲ賀スセイボフトリ ○晚歳互ニ

問謁饋遺ノ禮ヲ行フ上同 ○歳暮親友相聚テ飲宴スコレヲ忘年会ワシゴ

謂フ ○除夜紛々コトガトリコム ○門外人喧シテ一歳將ニ除セントスト

ノクレニセケン ○守歳ニトシノ夜 ○除夕燈ヲ室中ニ燃シ達旦眠ラズ上同

○爐ヲ圍テ團坐シ達旦寐ス上同 ○天地神佛祖先竈井牖戸ヨリ

以テ瀾瀾ニ至マテ燈ヲ燃シ輝煌達旦 ○街上驅疫者アリ祝壽驅邪

ノ辭ヲ唱テ去ルヒクハラ ○門ニ催科索逋ノ聲ナレカケトリ ○家ニ僦石クニセキ

ノ儲ナレゴクビン ○新ニ丁年ノ人事ヲ送ルトトシク ○正ニ春信ヲ緘シテ

己ニ梅梢ニ在リハルノキガウノ ○歳事蕭條トシク ○人生ハ夢ノ

如シコノ世ノコトハ ○少壯幾時ワカキトキハナ ○白髮相侵スシラガ

○附

記遊通用

性山水ノ癖アリ山水ノケレキヲ ○遊癖ヲ抱ヲ ○余夕夕烟霞ノ疾ヲ

抱ク自ラ謂ラク山水ニ非レバ醫スベカラズ ○烟雨痼疾泉石膏肓山水ヲ

ノムコノ ○烟霞ノ情歌ム能ハズ上同 ○遊趣頻ニ我ヲ促スアソビニ

甚シキ ○遊興

切學作文指掌

一編 冬 歳暮 記遊通用

百三

雑

夜除

俗風

躍然同○高興勃發同○屢遊バント欲シテ未果トダ○一遊セサルベカラズ
 豈一遊セザルケヤ○其地ヲ目撃セント欲ス○遂ニ蹶然トシテ起ツ○公
 暇ヲ以テ出遊ブ○予ヲ誘フテ俱ニ遊ブ○暇日毎ニ具ヲ携ヘテ往ク○
 命ジテ行具ヲ治スタビビタク○旅裝ヲ辨ス上○行廬ヲ携フ○筆硯ヲ
 載ス○杖ニ履ヲ躡ム○帽ヲ戴キ杖ヲ手ニス○袂ヲ投シテ起
 テ急ニ行李ヲ捨ケ、竹若笠ヲ戴キテ發ス○行滕ヲ絆ビ、芒躡ヲ躡ミ早
 ニ蝸廬ヲ出ツ○囊中長物ナク、唯烟具墨斗ノ類ノミ○圖ヲ披テ之ヲ
 搜ル○地誌ヲ檢シテ之ヲ得タリ○城ヲ距ル一數十里、此地特ニ著名タ
 リ○櫻花ヲ以テ著ル○山水ノ勝無慮數十處ニ下ラス、獨此地巨擘
 タリ○此ヲ去ル一二百武許○半里ニシテ近レザツト○數里ニ過キス○

數十歩ナル能ハズ○此ニ至テ道岐ス○小徑アリ左ニ分ル○此道
 ヨリヒバ太ダ捷ナカニテ迂ナリ○熟路郷道ヲ須タス○迷テ道ヲ失フ○前路
 ヲ取ルヲトホル○來時ノ路ヲ經○各自ニ路ヲ取ルメイキガフタ○緩轡漫
 遊スタツナヲユルメ○轡ヲ聯ネテ行クツレナドト馬ヲ○轡ヲ按ジテ徐行ス○
 一鞭直ニ馳スヒトナチアテ○輿ヲ備フ○車夫ヲ命ズ○車ヲ飛セテ
 之ニ赴ク○轡ヲ舍テ、歩ス○昧爽家ヲ發ス○東方未明ケズ、明星爛
 タルアリ夜ノアケヌ○東方已ニ白シ○落日山ニ餘テ、雞聲曉ヲ催ス○
 煙未揚ラズ、橋霜始テ白シ冬ノ初メニ朝○曉霧咫尺ヲ辨セズ○朝烟樹
 ヲ縈ル○日初テ三竿ヒクイ○日光爛然○近午方ニ家ヲ出ツヒルマヘニマウ
 ○時ニ日將ニ午ナラントス○日方ニ午ニ當ル○已ニ午ヲ過グ○此日天

氣晴朗、風埃作ホタテラズ○雨初テ晴ル○稍霽ホタテル○天氣和煦ホタテタルホタテ○

和氣人ヲ薰スホタテ○秋日澄霽ホタテ○日和シ風恬カ○清輝野ヲ蔽ホタテフホタテ○

○微風面ヲ吹キ鬢絲洒々然○衣袂褰舉ホタテ○風沙面ヲ撲ホタテウホタテ

○豫ホタテ雨具ヲ戒ム○果シテ雨フルホタテ○既シテ雨來ルホタテ○俄頃雨來ルホタテ○

笠一蓑飄然家ヲ出ツ○風雨驟ニ至ル○密雨已マズ○雨益密ニシテ風

益暴○一傘雨ヲ障ヘ○泥ヲ衝キ雨ヲ冒ス○路滑ニシテ歩スベカラズ○

轡中ニ坐シ油幕ヲ以テ上ヲ覆フ○路左ニ一小祠アリ乃入テ雨ヲ避ケ○

道傍ノ民舍ニ憩フ○車馬ヲ下テ憩フ○躊躇スルホタテ久シ○躊躇ホタテ徘徊ホタテ

良久シ○戀々去ルニ忍ビズホタテ○野飲一醉氣ヲ作シテ險ヲ嘗ホタテ

ムホタテ○一遂ニ樵徑ヲ求テ下ル○故道ニ縁テ下ルホタテ○日暮

返ルヲ忘ル○寺僧縁起ヲ説久概附會ノ説○殘日馬首ニ在リホタテ○

日已ニ暮ホタテ○會日暮ルニ垂トニテ果サス○日中ニシテ行キ晡ホタテ及

テ返ル○日將ニ暮ニシテ因霞絢爛○幾點ノ飛鴉歸テ綠樹ニ集ル○萬戸

半鎖シテ時將ニ黄昏ナラントス○道傍ノ民家皆已ニ燈ヲ點ゼリ○夕陽ヲ

送り、素月ヲ迎フ○東山已ニ月ヲ印ス○已ニ昏星ヲ見ル○月落テ參横

タル○月落テ天黒レ○戸已ニ鎖ス○暗夜寂寥トシテ人影ヲ見ズ○

蜀滅シテ夜黒ク咫尺ヲ辨ゼズ○四鄰人定リ車馬聲絶ユ○歸路星ヲ

見ル○星ヲ戴テ歸ル○愛ヲ割キ家ニ還ル○詩ヲ留テ去ルホタテ○

名ヲ題シテ歸ルホタテ○遂ニ止宿スホタテ○乃墨斗ヲ叫ビ聊カ意ノ

適スル所ヲ記ス心ノマラ○聊カ其概ガヲ敘スアラマシ○聊カ一二ヲ識シシ
 テ以テ他日ノ再遊ヲ俟ツ○之ヲ志シテ奇ヲ好ムノ君子ニ告グ○
 姑ク之ヲ識シテ以テ後ノ予遊ヲ繼グ者ヲ待ツ○燈ヲ挑カゲ硯ヲ滌ヒ
 テ以テ記ス○燭ヲ剪キリテ記ス○遠遊ヲ喜コミ足跡殆ホトシト天下ニ遍アルネシ

初學作文指掌一編終

明治十一年三月十八日版權免許

東京府下小石川區小石川指谷町九拾三番地
静岡縣士族

喰代豹藏

編輯人

東京府下本郷區本郷田町貳拾四番地

静岡縣士族

小方孝溥

兼出版

東京府下下谷區下谷數寄屋町拾四番地

岡村庄助

發兌

初學作文指掌

友仁社

此書ハ專ラ初學作文ノ資ト為ス者ニシテ、每編首ニ
 文話ヲ設ケ、略作文ニ関スル要訣ヲ説キ、次ニ廣ク序
 記論説等ノ用ニ適スル文材ヲ彙輯シ、大ニシテハ政
 体人事ナリ、小ニシテハ花卉禽獸蟲魚ナリ、諷刺ナル
 ナク、備ハラザルナシ、且其間ニ諸名家ノ作例ヲモ插
 ミ、之ニ評語ヲ加ヘテ文法ヲ指明セリ、紙數頗ル洪繁
 ナレバ、將ニ逐編上梓シテ世ニ問ハントス、先キニ既
 ニ其第一編ヲ發兌シ、今又第二編ヲ刻成ス、希クハ
 方ノ諸君陸續光顧アラントシテ

東 京 書 肆

日本橋通一丁目	須原屋	茂兵衛	本石町十軒店	椀屋	喜兵衛
同 二丁目	山城屋	佐兵衛	本町二丁目	紀伊國屋	梅次郎
同	須原屋	新兵衛	室町三丁目	紀伊國屋	源兵衛
芝太神宮前	和泉屋	吉兵衛	日本橋通三丁目	丸屋	善七
同	和泉屋	市兵衛	同	長門屋	龜七
横山町一丁目	出雲寺	萬次郎	南傳馬町一丁目	近江屋	半七
同 三丁目	和泉屋	金右衛門	同 二丁目	穴小	篤太郎
淺草茶町二丁目	須原屋	伊	銀座四丁目	和泉屋	北郎
同 廣小路	淺倉屋	久兵衛	芝口一丁目	和泉屋	善兵衛
小石川大門町	鷹金屋	清吉	飯倉五丁目	萬屋	忠藏
神田末廣町	英	文藏	麴町四丁目	磯部屋	太郎兵衛
淺草清島町	福田屋	勝藏	蠣壳町一丁目	若林	喜兵衛
湯島松住町	島屋	平七	大傳馬町三丁目	袋屋	龜次郎
神田須田町	和泉屋	勘右衛門	通油町	藤岡屋	慶次郎
同 新石町	鷹金屋	仙藏	馬喰町二丁目	森屋	治兵衛
本銀町四丁目	和泉屋	孝之助	同	山口屋	藤兵衛

初學作文指掌

友仁社

此書ハ專ラ初學作文ノ資ト為ス者ニシテ、每編首ニ
 文話ヲ設ケ、略作文ニ関スル要訣ヲ説キ、次ニ廣ク序
 記論說等ノ用ニ適スル文材ヲ彙輯シ、大ニシテハ政
 体人事ナリ、小ニシテハ花卉禽獸蟲魚ナリ、該ネサル
 ナク、備ハラザルナレ、且其間ニ諸名家ノ作例ヲモ插
 ミ、之ニ評語ヲ加ヘテ文法ヲ指明セリ、紙數頗ル洪繁
 ナレバ、將ニ逐編上梓シテ世ニ問ハントス、先キニ既
 ニ其第一編ヲ發兌シ、今又第二編ヲ刻成ス、希クハ
 方ノ諸君陸續光顧アラントシ

東京書肆

日本橋通一丁目	須原屋	茂兵衛	本石町十軒店	椀屋	喜兵衛
同 二丁目	山城屋	佐兵衛	本町二丁目	紀伊國屋	梅次郎
同 芝太神宮前	須原屋	新兵衛	室町三丁目	紀伊國屋	源兵衛
同 横山町一丁目	和泉屋	吉兵衛	日本橋通三丁目	丸屋	善七
同 三丁目	出雲寺	市兵衛	同	長門屋	龜七
淺草茶町二丁目	和泉屋	萬次郎	南傳馬町一丁目	近江屋	半七
同 廣小路	須原屋	伊	同 二丁目	穴小	篤太郎
小石川大門町	淺倉屋	久兵衛	銀座四丁目	和泉屋	北郎
神田末廣町	鷹金屋	清吉	芝口一丁目	和泉屋	善兵衛
淺草清島町	英	文藏	飯倉五丁目	萬屋	忠藏
湯島松住町	福田屋	勝藏	麴町四丁目	磯部屋	太郎兵衛
神田須田町	鳥屋	平七	燭売町一丁目	若林	喜兵衛
同 新石町	和泉屋	勘右衛門	大傳馬町三丁目	袋屋	龜次郎
本銀町四丁目	鷹金屋	仙藏	通油町	藤岡屋	慶次郎
	和泉屋	孝之助	馬喰町二丁目	森屋	治兵衛
			同	山口屋	藤兵衛

